



一閑張りの作品はこちら

杉本 純子さん



一閑張りの講師を務める杉本純子さん。一閑張りとは、竹や木で作られた土台に、漆や柿渋を使って和紙などを張り重ねて制作される伝統的な工芸品です。こだわりのその作品には、杉本さんにしかできない技術と強い思いが込められています。

20数年前、ふと手に取った本に掲載されていた一閑張りに魅了されて、独学で制作を始めた杉本さん。「周りに一閑張りをやっている人がいなくて、柿渋の会社に電話をして塗る方を教えてもらいました。初めは失敗ばかりでしたけど、それでも面白くてどんどん作品を作ってきました」。

そう語る杉本さんは「自分にしかできない作品を作りたい」という思いで、一閑張りの制作の中で絵柄を凸状に形成し、立体感を出す『デコぼり』という手法を編み出し、商標登録が認められます。

15年ほど前から各地で個展を開き、中でも東京の京王プラザで出展したことは、大きな自信につながったと言います。個展で制作・販売した作品は千点を超え、その収益の一部をあしなが育英会などに寄付してきました。

「一閑張りの魅力は、無限であること」と語る杉本さん。制作中にとんどんアイデアが湧いてきて、既に完成し

ている作品を壊すこともたびたびあります。「講師をしていても、生徒によつて作品が全く違うことが面白くて魅力的です」と笑顔を見せます。杉本さんの一閑張りは、ヨーロッパ最大級の日本文化の祭典『Japan Expo』から出展依頼が来るほど。残念ながら新型コロナウイルス感染症の感染拡大のため、開催が中止されてしまいましたが、自分の作品に声がかかったことに喜びを見せます。

持病の治療に専念するため、5月に大府市で開く個展を最後まで決めていた杉本さん。「作品の題材に合わせて材料を快く提供してくれるなど、大府市には私を支えてくれる人がたくさんいます。人とのつながりで大府市を好きになり、最後の個展は大府市でやることに決めました」と話し、今後については「多くの人に一閑張りを知ってほしい」と語ります。「一閑張りは、廃材を使って制作することもできるの

で、SDGsの活動としても注目してほしい」と今後の一閑張りの広まりに期待を込めます。



個展の詳細は28頁

▲杉本さんとその生徒が制作した作品

一閑張りの魅力は「無限」

